

平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 高見 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成28年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立への取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

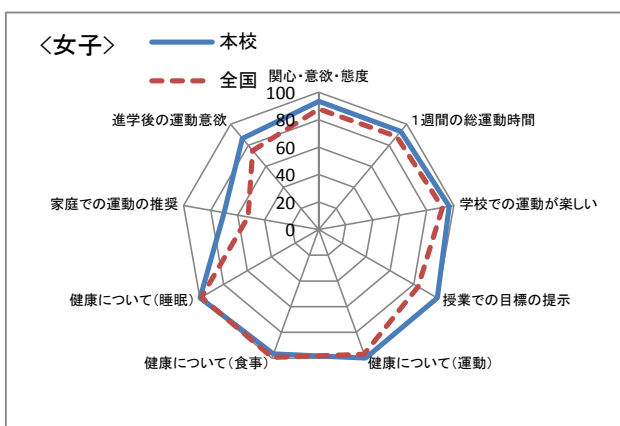
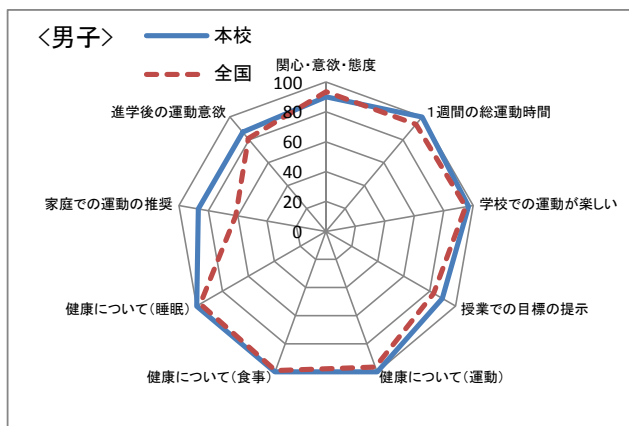
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42	53.92
本市	16.78	19.79	31.93	41.14	51.08	9.41	151.32	23.82	53.77
全国平均以上の種目	○	○		○	○	○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	18.60	37.21	40.06	41.29	9.61	145.31	13.88	55.54
本市	16.48	18.34	35.88	39.07	40.17	9.67	145.18	13.97	54.74
全国平均以上の種目	○	○		○	○	○	○		○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

どの質問項目についても、全国平均と同程度か上回る結果となっている。特に「家庭での運動の推奨」の項目については、全国平均を大きく上回っていて、各家庭において、体力向上に対する意識が高いことがうかがえる。学校においても、児童が目標をもって、進んで運動に取り組む態度が身に付いていることが分かる。ただ、わずかではあるが、「運動に対する関心・意欲・態度」(男子)について、全国平均を下回っている現状がある。運動の内容によって、好き嫌いがある児童もいると考えられる。今後、どのような運動においても、意欲的に取り組むことができる児童の育成を図る必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

本校では、「運動好きな児童の育成」を目指して、3つの視点に重点を置き、体育科の授業づくりに取り組んでいる。「①児童の課題解決を生み出す学習展開」「②十分な運動量の確保」「③児童への適切な評価」である。このような視点を大切にしなが授業を進めることによって、様々な運動に興味をもち、意欲的に取り組む児童が増えてきている。実技調査「長座体前屈」(男女)の結果が全校平均を下回っていることから、今後、体育科の授業の準備運動などで、柔軟性を高める運動を取り入れる等の工夫が必要であると考ええる。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

本校は1校1取組として、朝の運動(たかみんタイム)に取り組んでいる。毎週、火曜日・金曜日の朝自習の時間を利用して、様々な運動に取り組んでいる。運動の内容は、体育科の授業に関わるもの・新体カテストに関わるものなどで、児童の体力向上とともに、運動好きな児童の育成を目指している。